

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.12 令和3年5月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター

〒760-8521 高松市幸町1-1

Tel 087-832-1151～1154

Fax 087-832-1155

<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目 次

1. 2021年度（令和3年度）の大学教育基盤センターの課題について..... 1
2. 全学共通教育の令和3年度実施に向けた研修会（FD）報告..... 3
3. FDスキルアップ講座報告..... 4
4. 令和3年度新任教員研修会報告..... 9
5. 注目の全学共通科目のご紹介..... 11
6. 新スタッフからの一言..... 12

1. 2021 年度(令和 3 年度)の大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高橋 尚志

2021 年度は、引き続き新型コロナウイルスが猛威を奮う中スタートしました。昨年末から我が国も世界的にも大きな感染拡大の波が襲いかかりました。そういう環境下でも、昨年度で得た我々の経験は、大学での学びをいかに継続するかというもっとも重要な課題に光を当てるものであったと言えるでしょう。年度の初めの一時期には遠隔授業の準備のために実質的な授業がストップすることもありましたが、感染拡大を広げない措置をとりながら、可能なものから対面授業に移行し、一方で遠隔授業も駆使しながら学びの場を提供し続けることができました。教職員の努力と学生の協力があったのことと考えます。この場を借りてまずみなさまに御礼申し上げます。

今年度はどうかと言えば、変異型株と言われる遺伝子が突然変異したウイルスの感染がじわりじわりと広がり続けている中でのスタートになりました。もちろん、感染力が強いとされるため、より一層の引き締めは必要でありましょうが、感染防止対策を地道にしかも着実にやっていくことが基本であることは変わりありません。今年度はこういう状況下であっても対面授業を基本に置き、教育効果の高いものについては経験を積んだ遠隔授業も積極的に取り入れて授業を進める道を本学はとることになりました。感染拡大の状況次第では、より遠隔授業を増やしたりすることもやりながら、しかし、学生の顔の見える大学での学びにしようということです。

こういう環境下、全学共通教育に責任を負い学士課程教育全般にも責任を負う大学教育基盤センターとしては、以下の課題に今年度取り組むことにしています。

1. 第 3 期中期目標・中期計画の円滑な実施
2. 全学共通教育カリキュラムの円滑な実施と DRI 教育の推進
3. 第 4 期中期目標期間に向けた全学共通教育カリキュラム改革の着実な実施
4. 外国語教育の実施体制整備とインターナショナルオフィスとの協力共同の促進
5. 数理・データサイエンス・AI 教育の改革を含む ICT 教育の推進と情報リテラシーの円滑な実施
6. ネクストプログラムの円滑な実施
7. 地域教育の促進と主題 C-基礎科目の円滑な実施

1.については、本年度は第 3 期中期目標期間最終年にあたり、今年度の年度計画と第 3 期を通した目標及び計画についてやりきることが求められるところです。特に大教センターが中心的な役割を担う 2.の全学共通教育については、全体計画を実施し、基幹と位置付ける

DRI 教育の推進をはかっていくことが教育活動のメインストリームとなります。また、昨年度まで多くのメンバーの英知を結集して検討してきた 3.の第 4 期中期目標期間における全学共通教育カリキュラム改革について、着実な実施を行い、次年度スタートの第 4 期に備えることが肝要です。新たな試みのいくつかについては既に今年度当初より試行的に開始しています。4.の外国語教育の実施体制整備については、特に初修外国語の見直しを全体改革にあわせて行っており、具体化が求められるところです。また、グローバルカフェでの協力的なインターナショナルオフィスとの協力共同の促進も重要な課題です。5.の数理・データサイエンス・AI 教育については、大教センターが主体となり学長戦略経費を得て行っている事業であり、今後益々の強化が文部科学省からも求められているところです。6.のネクストプログラムは、香川大学版の副専攻制として知られる特別教育プログラムであり、これを通じ毎年 1 割の学生が何らかの更なる学びにトライしているものです。しっかりと実施していくことが学生ニーズにも応えるものであり、重視しているところです。7.の地域教育は、本学のスローガンとなっている「地域に根ざした学生中心の大学」を目指す上で重要な位置を占め、第 4 期の改革でも特別に位置付けた主題科目を軸に入学時から卒業にかけて一貫した教育プログラムとして発展強化するところです。

一つ一つ数えていけば、実に多くの課題を抱えているように見えますが、これらは日常の活動の中でやっていることを一つ一つ着実にやり遂げれば良いところと考えております。誰かスーパーマンが全部エイヤとやっつける仕事ではなく、文字通り全学の知恵と力を少しずつ出し合い成していくものです。どうか、本年度も変わらず、教職員のみなさまのお力添えを賜りますよう、よろしく申し上げます。

2. 全学共通教育の令和3年度実施に向けた研修会(FD)報告

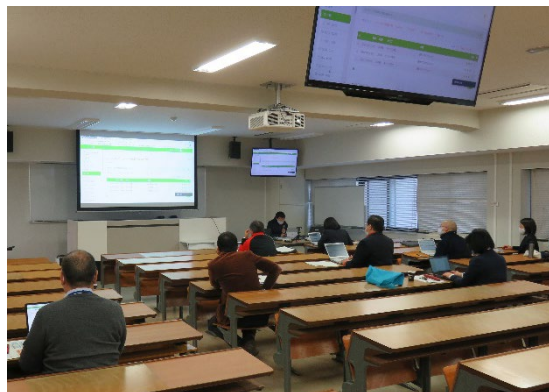
日時：令和2年12月8日(火) 13:00～16:10

場所：幸町北キャンパス 321 教室及びオンライン開催 (Zoom)

全学共通教育担当者を対象とした研修会が開催されました。本年度は、第1部、第2部ともに講義室での対面方式と遠隔配信方式を同時に行うハイブリッド方式を採用しました。第1部の参加者は122名、第2部の参加者は90名でした。ハイブリッド方式を採用したからでしょうか。例年より多くの方にご参加いただきました。

【第1部】第1部では、(1) 第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革について(寺尾徹共通教育部長)、(2) 遠隔技術を活用した教育の展開方針について(野村美加(調査研究部長))、という2つの講演がありました。(1) では、調査研究部にワーキンググループを設けて検討中の第4期中期目標期間に向けた全学共通教育改革方針に関する議論の現状が報告されました。(2) では、2020年8月に実施された「遠隔授業に関するアンケート調査」の結果から、今後本学が遠隔技術を活用した教育を進めていく上での課題が報告され、意見交換が行われました。

【第2部】第2部では、「いまさら聞けない Moodle の使い方」と題して、宮崎英一教授(数理情報・遠隔教育部長)による、演習形式のFDが開催されました。2020年4月の緊急事態宣言に伴い、多くの大学と同様、本学でも対面授業が原則禁止され、遠隔授業が開始されました。しかしながら、遠隔授業アプリケーションを問題なく利用できているか自信のない教員も一定数存在し、遠隔授業に関するFDの要望が強くありました。そこで、遠隔授業を得意としない教員を主な対象として想定し、演習形式で基礎的な Moodle の使い方を教えることを目的とするFDが企画されました。



詳細は『香川大学教育研究』第18号所収の報告をご覧ください。香川大学学術情報リポジトリからPDF版をダウンロードすることができます。

([香川大学学術情報リポジトリ \(nii.ac.jp\)](http://nii.ac.jp))

(文責・西本佳代)

3. FD スキルアップ講座報告

- 講座名：「学生の学びを促すシラバスの書き方」
- 日 時：令和3年1月6日（水）10:30～12:00
- 場 所：幸町北キャンパス 523 講義室
- 講 師：葛城浩一（大学教育基盤センター准教授）

本講座は、学生の学習をより促進するために、効果的なシラバスを書けるようになることを目的としています。シラバスとは何かという定義からはじまり、シラバスに記載する項目とそれらの具体的な書き方やポイントが詳しく解説されました。このような解説にくわえて、シラバスの書き方、特に目標と評価に関わる練習問題にも取り組みました。目標は成績評価の項目になり、適切な目標設定は学生の自学自習を促すうえでも重要になるからです。本講座が開講される時期はちょうどシラバス作成の時期となっているため、受講者は本講座で学んだ内容をすぐにかすことができたのではないのでしょうか。（文責：小坂有資）



- 講座名：「基礎から学ぶ学習評価法」
- 日 時：令和3年1月6日（水）13:00～14:30
- 場 所：幸町北キャンパス 523 講義室
- 講 師：佐藤慶太（大学教育基盤センター准教授）

本講座は、学習評価の学習支援機能を理解し、授業の目標に応じた評価方法を選択し、代表的な評価方法の特徴を説明することができるようになることを目標にしています。まず、学習評価の基本として、(1)なんのために、(2)なにを、(3)いつ、(4)どのように評価するかを、具体的な事例や技法を交えて解説されました。つぎに、ルーブリック評価について、その利点、ルーブリックの作成方法、そしてルーブリック評価に関する問題点も解説されました。その後実際に、課題を設定し、その評価の観点と評価のレベルを書き込み、ルーブリック評価表を作成しました。このように、学習評価の基本が分かりやすい表現で4点にまとめられており、また受講者が担当する授業を想定してルーブリックを作成したので、本講座の学びを受講者が担当する授業に利用しやすい内容でした。（文責：小坂有資）



- 講座名：「学生参加型授業の技法」
- 日 時：令和3年1月6日（水）14:40～16:10
- 場 所：幸町北キャンパス 525 講義室
- 講 師：西本佳代（大学教育基盤センター准教授）

本講座は、アクティブラーニングとは何かを理解し、学生参加型授業の技法を学び、それらの技法を自らの授業に導入することができるようになることを目標にしています。まず、学生参加型授業の導入について、アイスブレイクの説明を受けたうえで、遠隔授業も想定した Zoom のチャット機能を使ったアイスブレイクを体験しました。つぎに、学生参加型授業が求められる背景を、アクティブラーニングに関する説明も行いながら、解説されました。そして、学生参加型授業の技法について説明を受けるなかで、Zoom の投票機能やチャット機能を使ったワークも行いました。説明を受けた学生参加型授業の 14 技法は、それぞれの定義と内容が簡潔にまとめられており、また遠隔授業でとり入れやすい順に説明されたので、受講者が、授業内容だけでなく授業方法もふまえたうえで、適切に技法を利用することが出来るような内容でした。（文責：小坂有資）



- 講座名：「シラバス・授業を改善しよう！」
- 日 時：令和3年1月7日（木）10:00～15:00
- 場 所：幸町北キャンパス 523 講義室
- 講 師：葛城浩一・佐藤慶太・西本佳代（大学教育基盤センター）

本講座は、適切な目的・目標設定ができ、分かりやすいシラバスを書け、目的・目標にあった授業方法と成績評価法を選択でき、学生参加型のグループ作業を自らの授業で導入できるようになることを目標にしています。受講対象者は、「学生の学びを促すシラバスの書き方」、「基礎から学ぶ学習評価法」、「学生参加型授業の技法」の 3 講座を受講した方です。前半では、受講者はこれら 3 講座の学びをいかしてシラバスを修正し、その内容を発表し、他の受講者はルーブリックでその発表を評価し、講師はフィードバックをしました。後半では、受講者は授業の初回に配布する詳細版のシラバスを作成し、その内容を発表し、他の受講者はより詳細なルーブリックでその発表を評価し、講師はフィードバックをしました。このようなプロセスを経ることで、受講者はシラバスと授業を改善することができました。（文責：小坂有資）

- 講座名：「事例から学ぶ授業外学修促進のコツ」
- 日 時：令和3年1月7日（木）15:30～17:00
- 場 所：幸町北キャンパス 525 講義室
- 講 師：小坂有資（大学教育基盤センター特命講師）

香川大学大学教育基盤センター特命講師の小坂有資先生による、FD スキルアップ講座「事例から学ぶ授業外学修促進のコツ」が開催されました。この講座では、本学で開講されている全学共通科目を事例としながら、授業外学修を促進するコツを学びます。2019年度に開講された5つの対面授業に加え、2020年度に開講された5つの遠隔授業が紹介され、受講者はその授業を参考に、ご自身の授業で授業外学修を増やすための工夫を考えます。小坂先生がインタビューして集めた10の事例は、とても興味深いものばかりで、遠隔授業実施にあたっての各先生方のご苦勞もうかがい知ることができました。その一方、「授業外学修促進のコツ」として紹介された内容が、プレゼンテーションに向けてのグループワーク、レポート作成、の二点に集約されてしまったことが少々残念でした。講座を提供する大学教育基盤センターとしては、引き続き「授業外学修を促進するコツ」を集め、一定以上の授業外学修時間を確保するためのお手伝いをする事ができればと考えています。（文責：西本佳代）



- 講義名：「アカデミック・スキル」をどう教えるか
- 日 時：令和3年3月2日（火）13:00～15:10
- 場 所：オンライン開催(Zoom)
- 講 師：佐藤慶太・西本佳代・葛城浩一（大学教育基盤センター）・高水徹（インターナショナルオフィス）

本講座は、主に全学共通教育カリキュラムにおける「大学入門ゼミ」の担当者を対象としたものです。大学教育基盤センター作成の「大学入門ゼミハンドブック」に指導のためのガイドラインと授業モデルが提示されていますが、より分かりやすく紹介し質問に答えることで、担当者が授業の計画や実施に十分に活用できるようになることを目的としています。

本時では、前半部で「情報整理の方法（佐藤）」の教え方、「レポートの書き方（西本）」の教え方、「プレゼンテーションの方法（葛城）」の教え方の3つについて、その後質疑応答を挟み後半部で「日本語技法（高水）」の教え方について講義がありました。

前半では、まず「情報整理の方法」の教え方として、ノートの取り方についての説明がありました。授業への応用として、料理番組のビデオを見ながら実際にメモを取ったり、講義の説明文の重要箇所にマークを入れたりする実践例が示されました。また、次の「レポートの書き方」の教え方においては、レポートと感想文の違いやレポート作成の手順の具体的な説明がありました。さらに、引用のルールや参考文献の書き方、剽窃の違法性についても触れられました。「プレゼンテーションの方法」の教え方では、最初に、プレゼンテーションの定義とはどのようなものであるかが述べられ、プレゼンテーションの構成要素であるコンテンツ、テクニック、ツールについてそれぞれの重要点が明確にされました。また、計画・準備(Plan)・発表(Do)・評価(Check)・改善・工夫(Action)というプレゼンテーションにおける理想的な流れが紹介され、聴き手との相互作用の重要性についても触れられました。授業では学習した内容を反映させて再度プレゼンテーションをさせることが学生だけでなく、教員にも成果の確認をする上で大切であることが強調されました。

質疑応答では、評価のよりよい仕方として、プレゼンテーションの内容よりも作法をきちんと評価することの重要性について説明がありました。

後半部の「日本語技法」の教え方では、日本語によるコミュニケーションスキルの向上を図るために、アカデミックな活動だけでなく、教職員とのやり取りにおけるマナーについても説明がありました。技法のモデルとして、1.教職員へのメールの書き方、2.書き言葉による手順の説明、3.推敲の技法、4.比較・対照の技法、5.箇条書きの技法、6.要約の技法、の6つについて述べられました。それぞれの技法において、良い例と改善すべき例が提示され、チェックポイントも明確に示され、実際の授業への応用が分かりやすく紹介されました。

本講座での内容は、「大学入門ゼミ」のp.7からp.77の「授業モデル」に詳しく掲載されています。（文責：ウィリアムズ厚子）

〈今後のスキルアップ講座の予定〉

| | |
|--|---|
| 新任教員研修会 「よりよい授業のためのFDワークショップ」 | 令和3年9月7日(火)～9月8日(水) 幸町北キャンパス |
| Zoom 百物語、授業や会議が更にパワーアップ | 令和3年9月16日(木) 13:00～14:30 Zoom(幸町北キャンパス5号館525講義室) |
| 充実させよう！アクティブラーニング型授業 | 令和3年9月16日(木) 14:40～16:10 幸町北キャンパス5号館525講義室 |
| 充実させよう！アクティブラーニング型授業 －話し合い・教え合いの技法－ | 令和3年9月16日(木) 16:20～17:50 幸町北キャンパス5号館525講義室 |
| 充実させよう！アクティブラーニング型授業 －図解・文章作成の技法－ | 令和3年9月17日(金) 13:00～14:30 幸町北キャンパス5号館525講義室 |
| 充実させよう！アクティブラーニング型授業 －問題解決の技法－ | 令和3年9月17日(金) 14:40～16:10 幸町北キャンパス5号館525講義室 |
| 事例から学ぶ問題発見・解決型授業のコツ | 令和3年9月17日(金) 16:20～17:50 幸町北キャンパス5号館525講義室 |
| 学生の学びを促すシラバスの書き方 | 令和4年1月6日(木) 10:30～12:00 幸町北キャンパス5号館523講義室 |
| 基礎から学ぶ学習評価法 | 令和4年1月6日(木) 13:00～14:30 幸町北キャンパス5号館523講義室 |
| 学生参加型授業の技法 | 令和4年1月6日(木) 14:40～16:10 幸町北キャンパス5号館523講義室 |
| シラバス・授業を改善しよう！ | 令和4年1月7日(金) 10:00～15:00 幸町北キャンパス5号館523講義室 |
| 事例から学ぶ授業外学修促進のコツ | 令和4年1月7日(金) 15:30～17:00 幸町北キャンパス5号館523講義室 |
| 「アガデミック・スキル」をどう教えるか | 令和4年3月1日(火) 13:00～15:10 幸町北キャンパス5号館523講義室 |

4. 令和3年度新任教員研修会報告

日時：令和3年4月7日（水）9:30～15:55

場所：教育学部第3会議室（幸町北キャンパス3号館2階）

【プログラム】

午前の部 9:30～12:00

- | | |
|-------------------------------------|-----------------------------|
| 1. 開会挨拶 | 笈 善行（香川大学学長） |
| 2. 香川大学 教育の現状と今後について | 今井田克己（教育担当理事） |
| 3. 研究活動と教員の活動評価について | 片岡郁雄（研究・産官学連携・ 教員評価担当理事） |
| 4. コンプライアンスを考える | 真鍋光輝（総務・労務担当理事） |
| 5. 香川大学の地域連携の取り組みについて （産学官連携の推進） | 城下悦夫（産官学連携・特命担当副学長） |
| 6. 各部局からの事務説明 | バリアフリー支援室・保健管理センター |
| 7. 情報セキュリティについて | 吉田秀典（危機管理・学術・特命担当副学長） |

午後の部 13:30～15:40

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明 | 石井知彦（大教センター能力開発部長） |
| 2. 全学共通教育運営体制について | 寺尾 徹（大教センター共通教育部長） |
| 3. 全学共通科目の枠組みについて | 野村美加（大教センター調査研究部長） |
| 4. 令和3年度全学FDプログラムについて | 葛城浩一（大教センター） |
| 5. スキルアップ講座について | 西本佳代（大教センター） |
| 6. 新任教員お悩み相談 | |
| 7. 修了式 | 高橋尚志（大教センター長） |

令和3年度の新任教員研修会が開催されました。昨年度はコロナ禍の影響で、対面方式での実施ではあるもののグループワークなどを行わず、時間を大幅に短縮して実施しました。今年度も基本的には昨年度のスケジュールを踏襲した上で、感染拡大防止策をさらに徹底した上で対面で実施しました。午前中には学長の挨拶の後、教育・研究・教員評価・コンプライアンス・地域連携・学生支援・保健管理・情報セキュリティ等について、それぞれ担当の理事・副学長・教員から説明がありました。特に学長は、本学におけるDRI教育の意義と重要性について新任教員に熱く語り、本学を卒業した学生が世の中で強くたくましく生き抜いてほしい旨、学生に対する思いとそれを支える教員の役割について詳しく説明されました。

午後は大学教育基盤センターが全学共通教育に関する説明を行いました。能力開発部長の趣旨説明の後、寺尾共通教育部長と野村調査研究部長から、それぞれ全学共通教育の運営体制と、全学共通科目の枠組みについて説明がありました。休憩を挟み、葛城教員よりFD受講の意義が説明され、本学で開催される全学FDの新しいラインナップが紹介されました。さらに西本教員よりスキルアップ講座についての説明がなされ、MS-Formsを用いた教員と学生の双方向型リアルタイムアンケートの実践例の紹介がありました。最後に、佐藤教員と

各学部から選出された能力開発部委員により、新任教員お悩み相談の時間が設けられました。今回は参加者から、研究費の獲得方法や企業との共同研究の進め方、コロナ禍における対面授業と遠隔授業の具体的な実施例などについての質問があり、能力開発部委員が丁寧に説明を行いました。参加者からのアンケートには、午前の部も午後の部も、説明者のプレゼンが非常に上手で、とてもわかり易かったという感想が寄せられています。



本学では平成 30 年度より「新任教員研修プログラム」が本格実施されています。そこで「新任教員研修プログラム」の受講対象者にガイダンスを実施し、なぜ受講しなければならないのかの理由と背景の説明を行いました。令和 3 年度の新任教員研修ワークショップは 9 月 7 日(火)、8 日(水)の二日間、幸町キャンパスにて開催されます。新任教員の皆さんには引き続き参加をお願いします。(文責:石井 知彦)

5. 注目の全学共通科目のご紹介

■主題 B 「学びへの誘い」

大学教育基盤センターでは、令和 4 年度にスタートする新カリキュラムを目下準備中です。この改革の目玉の一つとなるのが、新たな入門科目「学びへの誘い」の開設です。この科目には、新入生に早い段階で自分の専門以外の学問分野の面白さを知ってもらい、より広い視野で授業を選択できるようになってほしい、という願いが込められています。

本年度、主題 B の枠内で開講されている「学びへの誘い」は、上記の取り組みのための試行です。クォーター型の授業で担当教員はなんと 12 名！自分で言うのもなんですが、非常に贅沢な授業です（担当者については下部をご覧ください）。現在、第二回が終了したところで、まだ序盤戦ですが、科目のコンセプト、授業の様子について報告をしたいと思います。

第 1 回のオリエンテーションでは、Microsoft Forms の投票機能を使って、教員があらかじめ用意した 15 の候補テーマから、学生に取り上げてほしいテーマを 3 つ選んでももらいました。選ばれたのは「技術革新」、「貧困」、「コロナ」の 3 つ。やはりコロナに対する関心は高いようです。それ以外に、硬いテーマ二つが選ばれたことは意外でした。

第 2 回から第 6 回までは、2 名～3 名の教員で一つの授業を担当します。原則として、理系と文系の教員が一人ずつ入る構成をとります。同じテーマでも分野が違くとアプローチも異なる、ということがはっきり分かるような工夫がなされているわけです。

第 2 回授業の担当者は、葛城浩一先生（大教センター：教育学）と石井知彦先生（創造工学部：化学）。そこに飛び入りゲストで舟橋正浩先生（創造工学部：化学）も入っていただきました。葛城先生からは、教育社会学について、先生の研究の一環である「特撮ヒーロー番組」をからめた紹介がありました。石井先生と舟橋先生からは、コロナと化学、私たちの身の回りにあるものと化学の関わり、大学と化学、映画に登場する化学、といったトピックでお話がありました。例えば技術革新について語る時、化学ならば研究成果と技術革新の關係に、教育社会学ならば、技術革新が映像作品に及ぼす影響に焦点が絞られるという、両者の違いを見ることもできました。最後の質問コーナーでは、それぞれの学問のあり方について学生から多く質問が出ており、学生の興味が大いにかき立てられたことが伺えました。



第 7 回は、すべての教員が一堂に会してディスカッションをする予定です。これだけの数の、しかも分野の異なる教員が一つの授業に集まって議論をする機会はなかなかありません。どんな 90 分になるのか、担当者の一人としてもとても楽しみです。（文責：佐藤慶太）

学びへの誘い 授業スケジュール

1. オリエンテーション、テーマ決定
2. 化学（石井知彦・舟橋正浩）×教育学（葛城浩一）
3. 物理学（鶴町徳昭・高橋尚志）×経済学（岡田徹太郎）
4. 地球科学（寺尾徹）×哲学・倫理学（佐藤慶太）
5. 生物学（野村美加）×哲学・倫理学（三宅岳史）
6. 医学（横平政直）×漢文学（古橋紀宏）
7. 全体ディスカッション
8. ふりかえり



オリエンテーションの様子

6. 新スタッフから一言

大学教育基盤センター 特命講師 中井 富紀



皆さま、はじめまして。中井 富紀（なかい ふき）と申します。

「富紀」という名前は、両親が、21世紀においていろいろな意味でリッチな人間になるようにとつけてくれたものなのですが、残念ながら、実際は、プアです。といいますのも、世界ウォッチングが大好きで、お金はすべて旅費にとつぎ込んできたからなのです。これまでに数多くの海外渡航歴があります。機会があれば体験談などもお話ししますね。」と、第一回目のクラスで自己紹介をいたしました（ちなみに英語で）。

そのような移動好き人間の私ですが、いざ香川に、という際には、少々不安な気持ちになりました。

私 「こんないい年をして、引っ越しや環境変える、って大丈夫かなあ。ホームシックにもなりそう…」

友人「あのねえ、高速2時間くらいのところまでホームシックにならないでよ。四国の中なのだから、大差ないと思うよ。うどんとみかんの違いくらいじゃない。」

と、友人に背中を押され、愛媛は松山を後にしました。

今ではみかんよりうどんの方を楽しんでいます。

最後になりましたが、専攻は英語学部・応用英語言語学（Applied English Linguistics）で、英語の音声、音韻論がとくに興味のある分野です。

本学の学生にはもちろんのこと、地域においてもどのように貢献できるか模索中です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

修学支援グループ チーフ 乙武 美穂

令和3年4月1日付けで教育・学生支援部修学支援グループに配属されました、乙武美穂と申します。

3月末までは企画総務部人事企画グループに所属し1日中事務室から出ることのない業務に従事してまいりましたので、活気あふれる大学構内の様子や、初々しい新入生の姿を間近で見ることができ、新鮮な気持ちで日々業務に取り組んでおります。微力ではありますが、学生および教員のみなさまのサポートができるよう精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援グループ）までお願いします。